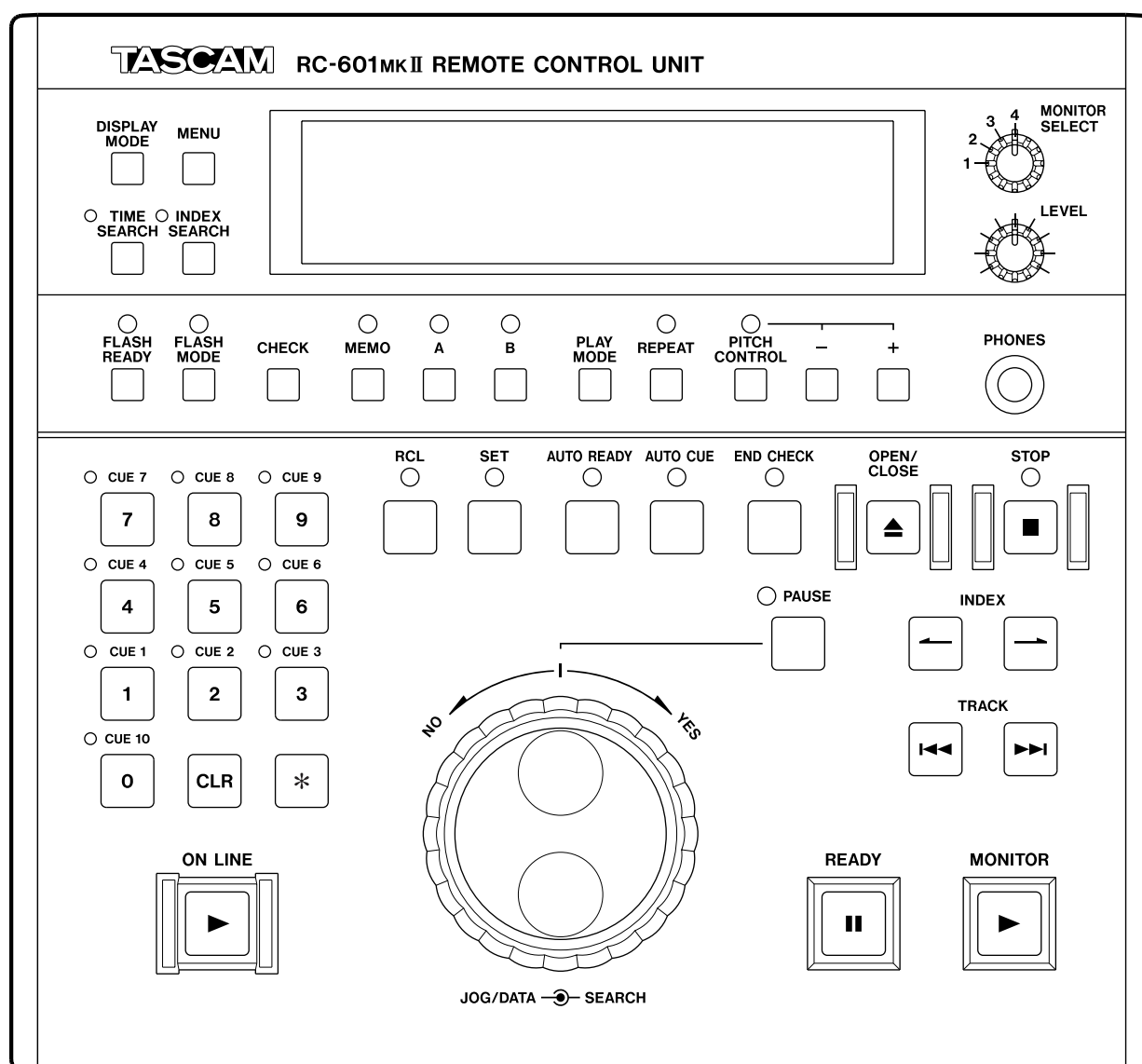
D00865100A

RC-601MKII

Remote Control Unit

取扱説明書

安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への
危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と
意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

この機器はCD-601MKII専用のリモコンです。他の目的に使用しないでください。火災・感電の原因となります。

万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにCD-601MKII本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。

万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まずCD-601MKII本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

接続ケーブルが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

接続ケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルが本機の下敷にならないようにしてください。ケーブルに傷がついて、火災・感電の原因となります。

接続ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり加熱したりしないでください。ケーブルが破損して、火災・感電の原因となります。

この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告

万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、CD-601MKII本体の電源スイッチを切り、接続ケーブルをはずして、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意

接続ケーブルの抜き差しは、CD-601MKII本体の電源スイッチを切った状態で行なってください。電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因となることがあります。

他の機器を本機に接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。

５年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。なお、掃除費用についてはご相談ください。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。
・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
・湿気やほこりの多い場所
・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

接続ケーブルを熱器具に近付けないでください。ケーブルの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

移動させる場合は、CD-601MKII本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ずCD-601MKII本体の電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は安全のためCD-601MKII本体の電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。

もくじ

はじめに

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後はいつでも手の届く所に大切に保管してください。

RC-601MKIIはCD-601MKII専用のリモートコントロールユニットです。RC-601MKIIをCD-601MKIIに接続して使用することにより、さまざまな機能が追加されるとともに、使い勝手が一段と向上します。

主な拡張／追加機能

RC-601MKIIを接続することにより、CD-601MKIIに以下の機能が拡張／追加されます。

- テンキーを使ったタイムサーチ／インデックスサーチ。
- ジョグ／サーチダイアルを使ったサーチ。
- トラックのエンディングを試聴できるエンドチェック機能。
- さまざまなリピート再生機能（1曲リピート、全曲リピート、プログラムリピート、A-B間リピート)。
- キューポイントロケート機能。1枚のディスクにつき最大10ヶ所のキューポイントを登録可能。
- キューポイントからの瞬時スタート機能（フラッシュスタート機能)。
- 500枚分のディスクのキューポイント設定をメモリー可能
- メモポイント（A、B）間の再生。
- 最大4台の外部オーディオ機器の出力を接続してヘッドホンモニターが可能。

取扱説明書の用語について

この取扱説明書では、
オンライン再生待機状態を「**オンラインREADY**」、
モニター再生待機状態を「**モニターPAUSE**」と表記しています。

⚠ 注意

CD-601MKIIとの接続ケーブルの抜き差しは、CD-601MKII本体の電源スイッチを切った状態で行なってください。電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因となることがあります。

製品構成

本製品の構成は以下の通りです。

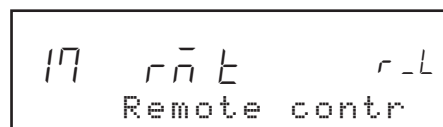
- RC-601MKII本体　1
- 接続ケーブル（5 m）　1
- 取扱説明書（本書）　1
- 保証書　1

なお、本機を開梱する時、損傷を与えないよう慎重に行なってください。梱包箱と梱包材は後日輸送するときのために保管しておいてください。

付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合、当社までご連絡ください。

CD-601MKII操作の設定

RC-601MKII接続時、CD-601MKII本体の操作を有効にするか無効にするかを選ぶことができます。

メニュー項目番号17（"RMT"）を使って設定します。

R_L（Remote＋Local）：RC-601MKIIとCD-601MKIIのどちらからも操作できます。

R（Remote）：RC-601MKIIからだけ操作できます。CD-601MKIIの操作は**OPEN/CLOSE**キー、**DISP MODE**キー以外は無効です。

※ メニューの操作方法については「メニュー操作」（15ページ）をご覧ください。

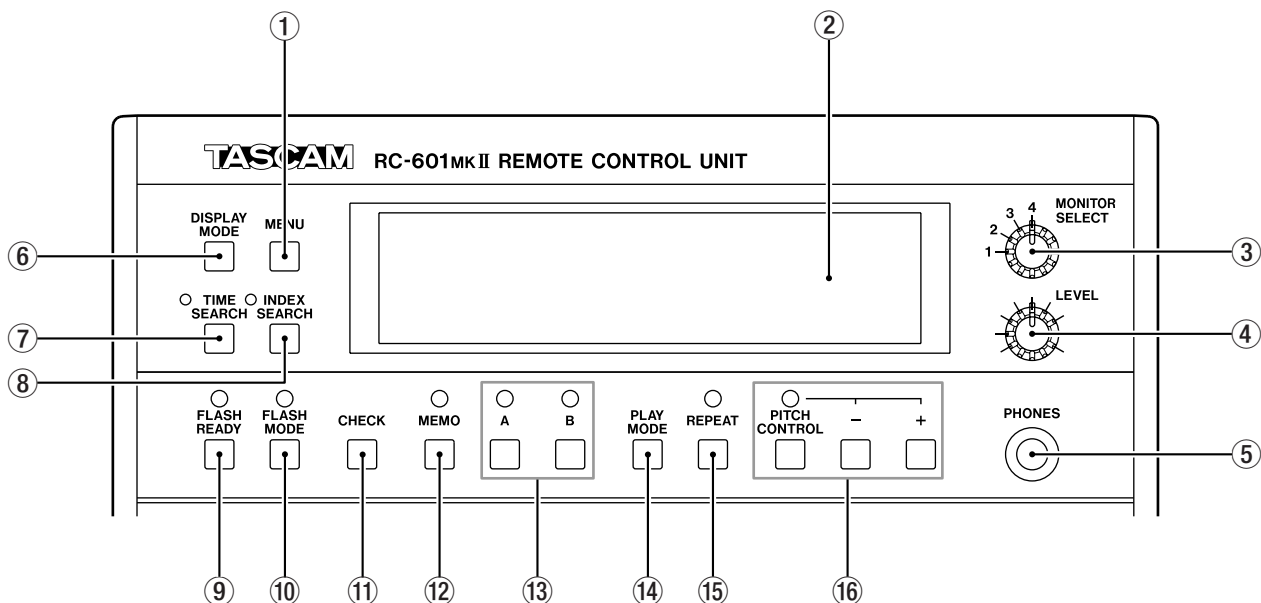
バックアップメモリーについて

以下の設定情報はCD-601MKIIのバックアップメモリーに記憶されますので、電源をオフにした後で再びオンにしたときに設定が再現されます。

- 再生モード
- 時間表示モード
- オートレディ機能のオン／オフ
- オートキュー機能のオン／オフ
- ピッチコントロール機能のオン／オフ
- ピッチコントロールの値
- インデックスサーチ機能のオン／オフ
- 各メニュー項目の設定(*)

(*)："USER"メニューが"PRE"に設定されている場合は、電源投入時は常にメニュー項目設定が初期設定になります。(→17ページ「メニュー設定の保存」)

各部の名称と機能

トップパネル

① MENUキー

メニューモードのオン／オフを切り換えます。メニューを使ってさまざまな設定を行なうことができます。（→15ページ「メニュー操作」）

【メモ】

- CD-601MKII本体がメニューモードのときは、RC-601MKIIのすべての操作キーが無効になります。

② 表示窓

ディスク情報、CD-601MKIIの動作モード、メニューなど、さまざまな情報を表示します。（→9ページ「表示窓」）

③ MONITOR SELECTつまみ

RC-601MKIIのリアパネルの**MONITOR IN**端子から入力される4系統のステレオ信号の中から、ヘッドホンモニターのソースを選択します。

④ LEVELつまみ

ヘッドホン出力レベルを調節します。

⑤ PHONES端子

ステレオヘッドホンを接続するための標準ホンジャックです。

⑥ DISPLAY MODEキー

押すたびにRC-601MKII表示窓の時間表示モードが切り換わります。

初期設定では「トラック経過時間」と「トラック残時間」の間で切り換わります。

メニューを使って、切り換える表示モードの種類を選ぶことができます。（→28ページ「時間表示を切り換える」）

【メモ】

- RC-601MKIIとCD-601MKIIの表示窓の時間表示モードは個別に設定します。CD-601MKII本体の表示窓の時間表示モードは本体で設定します。

⑦ TIME SEARCHキー

タイムサーチ機能のオン／オフを切り換えます。このインジケーターが点灯している状態では、停止中、モニターPAUSE中またはモニター再生中に、テンキーを使って指定した時間のポイントにスキップすることができます。（→14ページ「タイムサーチ機能」）

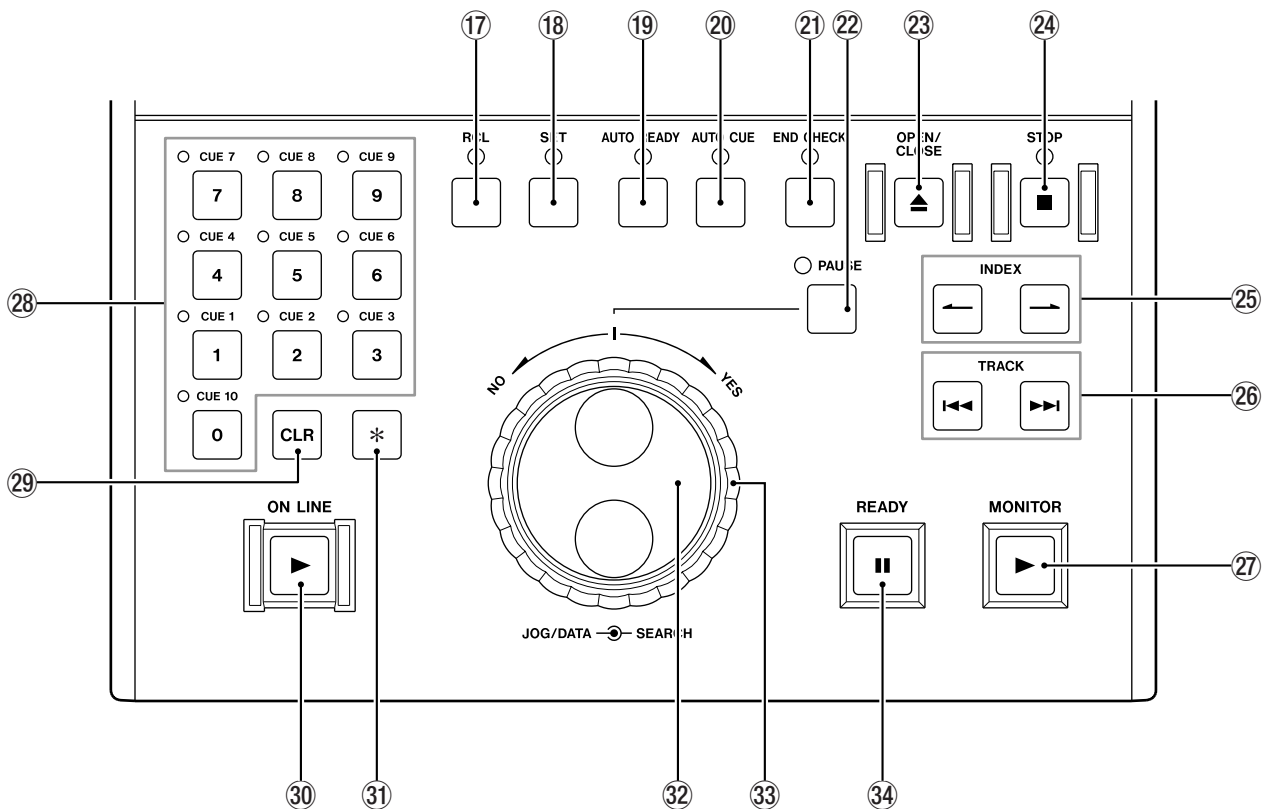
⑧ INDEX SEARCHキー

インデックスサーチ機能のオン／オフを切り換えます。このインジケーターが点灯中、テンキーを使ってインデックスを指定することができます。（→14ページ「インデックス番号指定」）

⑨ FLASH READYキー

このキーを押すと、フラッシュスタートのためにキューポイントがCD-601MKII本体のバッファメモリーに読み込まれます。（→24ページ「フラッシュスタート」）

⑩ FLASH MODEキー

フラッシュスタート機能のオン／オフを行ないます。フラッシュスタート機能を使うと、あらかじめ指定したキューポイントから瞬時に再生をスタートすることができます。（→24ページ「フラッシュスタート」）

⑪ CHECKキー

キューポイントやメモポイントに設定されている時間をチェックするときに使います。

メモモードがオフのとき、キューポイントをチェックできます。メモモードがオンのとき、メモポイント（A、B）をチェックできます。（→21ページ「メモポイントの時間を確認する」）（→24ページ「キューポイントの時間を確認する」）

ポイント表示中にCLRキーを押すと、そのポイントが消去されます。

⑫ MEMOキー

メモモードのオン／オフを切り換えます。（→21ページ「メモポイント（A、B）を使った機能」）

⑬ A、Bキー

任意のポイントをAポイントおよびBポイントとして設定することにより、2ポイント間再生、Bポイントでの自動停止、A、Bポイントのリハーサル再生などができます。（→21ページ「メモポイント（A、B）を使った機能」）

⑭ PLAY MODEキー

CD-601MKII本体のPLAY MODEキーと同じ働きをします。

再生モードを通常再生（全曲再生）、シングル再生、プログラム再生の中から選択します。

表示窓の再生モード表示部に現在の再生モードが表示されます。（→10ページ「再生モードを選ぶ」）

⑮ REPEATキー

リピート機能のオン／オフを行ないます。（→20ページ「リピート機能」）

⑯ PITCH CONTROL、＋、－キー

PITCH CONTROLキーはCD-601MKII本体のPITCHキーと同じ働きをします。ピッチコントロール機能のオン／オフを切り換えます。オンにすると表示窓に"PITCH"および設定値（%）が点灯します。

＋／－キーを使ってピッチコントロール値（± 12.5%）を設定します。（→19ページ「ピッチコントロール機能」）

⑰ RCLキー

キューポイントをリコールするときに使います。

⑱ SETキー

メモポイントやキューポイントの設定や、ディスク情報の保存をするときに使います。（→21ページ「メモポイントを設定する」）（→23ページ「キューポイントを設定する」）（→25ページ「ディスク情報を保存する」）

⑲ AUTO READYキー

CD-601MKII本体のAUTO RDYキーと同じ働きをします。オートレディ機能（トラックを再生後に次のトラックの頭で再生待機する機能）のオン／オフを切り換えます。オンのとき、表示窓に"A.READY"が点灯します。（→19ページ「オートレディ機能」）

⑳ AUTO CUEキー

CD-601MKII本体のAUTO CUEキーと同じ働きをします。オートキュー機能（おもにトラックサーチ時に、トラックの実際の音の立ち上がりポイントを検出して待機する機能）のオン／オフを切り換えます。オンのとき、表示窓に"A.CUE"が点灯します。（→19ページ「オートキュー機能」）

㉑ END CHECK キー

トラックのエンディングをチェックするエンドチェック機能のオン／オフを行ないます。（→28ページ「トラックのエンディングをチェックする」）

㉒ PAUSEキー

停止時、オンラインREADY時またはモニター再生時に押すと、モニターPAUSE状態になります。（→12ページ「各トランスポートキーの動作詳細」）

㉓ OPEN/CLOSEキー（⏏）

トレイを開閉します。

㉔ STOPキー（■）

CD-601MKII本体のSTOPキーと同じ働きをします。このキーを押すと、ディスクが停止します。停止中はインジケーターが点灯します。（→12ページ「各トランスポートキーの動作詳細」）

㉕ INDEXキー（ ／ ）

インデックスサーチ（スキップ）を行なうときに使います。

㉖ TRACKキー（⏮／⏭）

トラックサーチ（スキップ）を行なうときに使います。

㉗ MONITORキー（▶）

停止時、オンラインREADY時またはモニターPAUSE時に押すとモニター再生を始めます。モニター再生中、このキーは黄色に点灯します。メモモードのリハーサル中、このキーは黄色に点滅します。（→12ページ「各トランスポートキーの動作詳細」）

㉘ テンキー

トラックナンバー指定、インデックスナンバー指定、時間入力、キューポイントの登録時に数値を入力します。

㉙ CLRキー

CHECKキーを使ってキューポイントやメモポイントを表示しているときにこのキーを押すと、表示中のポイントが消去されます。

また、テンキーを使って数値を入力中にこのキーを押すと、数値が2桁単位で消去されます。

㉚ ONLINEキー（▶）

オンラインREADY中（READYキー点灯中）にこのキーを押すと、オンライン再生を行ないます。オンライン再生中、このキーは赤色に点灯します。（→12ページ「各トランスポートキーの動作詳細」）

㉛ ＊キー

メニュー操作時に項目や設定を確定したり、プログラム設定時にプログラムの追加をするときに使います。

㉜ JOG/DATAダイアル

モニターPAUSE時に1フレーム単位のジョグ操作を行ないます。また、メニュー操作時には、項目や設定値を選択するときに使います。

㉝ SEARCHダイアル

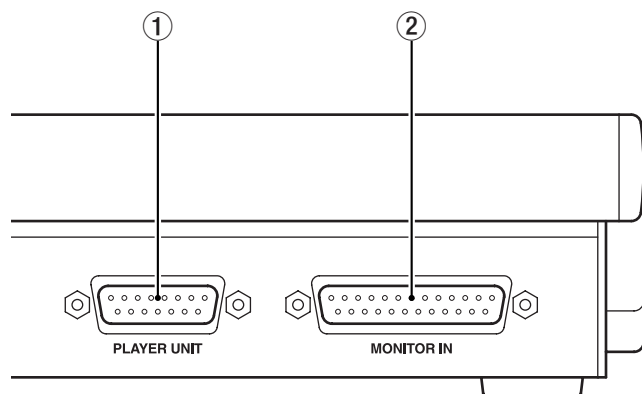
モニターPAUSEやモニター再生時、右に回すと早送り、左に回すと早戻しのキューサーチを行ないます。（→14ページ「曲の途中をサーチする」）

またメニューモードでは、右に回すとメニュー項目や設定内容の確定（YES）、左に回すとキャンセル（NO）を行ないます。

㉞ READYキー（❚❚）

このキーを押すと、本機がオンラインREADYになります。

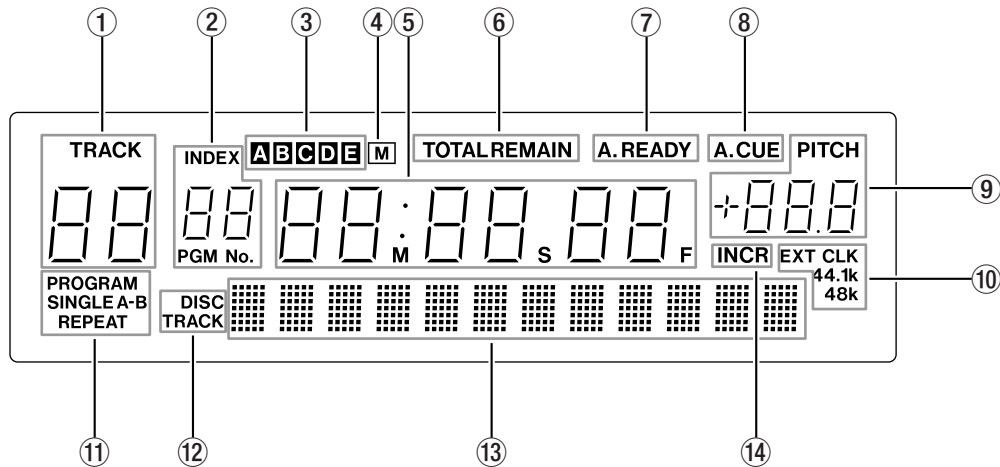
オンラインREADYのポイントは、キーを押したときの本機の状態によって異なります。オンラインREADY中、このキーは緑色に点灯します（→12ページ「各トランスポートキーの動作詳細」）

リアパネル

① PLAYER UNIT端子

付属の接続ケーブルを使って、CD-601MKII本体と接続します。

② MONITOR IN端子

4系統のアンバランスステレオ信号を入力可能な端子です。入力した信号を本機のトップパネルに接続したヘッドホンでモニターすることができます。（→27ページ「ヘッドホンモニター機能」）

表示窓

① **トラック表示部**

再生中や選択中のトラック番号を表示します。
メニューモード中はメニュー番号を表示します。

② **インデックス／プログラム表示部**

再生中や選択中のインデックス番号を表示します。プログラム設定時はプログラムステップ番号を表示します。

③ **メモリーバンク表示部**

現在選択中のメモリーバンク（A～Eのいずれか）を表示します。（→25ページ「ディスク情報を保存する」）

④ **メモリー表示部**

ディスクのキューポイントなどの情報がCD-601MKII本体の内部メモリーに保存されているときに"M"が点灯します。（→25ページ「ディスク情報を保存する」）

⑤ **時間表示部**

時間情報を表示します。
メニューモード中はメニュー項目を表示します。メニュー項目表示では、アルファベットが下のように表示されます。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

⑥ **時間表示モード表示部**

時間表示モードに応じて以下のように点灯します。（→28ページ「時間表示を切り換える」）

ディスク残時間モード時：　TOTALとREMAINが点灯
ディスク総時間モード時：　TOTALが点灯
トラック時間モード時：　TOTALが点滅
トラック残時間モード時：　REMAINが点灯

⑦ **オートレディ表示部**

オートレディ機能がオンのときに点灯します。（→19ページ「オートレディ機能」）

⑧ **オートキュー表示部**

オートキュー機能がオンのときに点灯します。（→19ページ「オートキュー機能」）

⑨ **ピッチコントロール表示部**

ピッチコントロールがオンのときに"PITCH"が点灯し、ピッチ・コントロール値を表示します。（→19ページ「ピッチコントロール機能」）
またメニューモード中は設定値を表示します。

⑩ **クロック表示部**

CD-601MKII本体が外部クロックに同期しているときに"EXT CLK"が点灯し、サンプリング周波数を表示します。動作クロックを"EXT"に設定時、外部クロックに同期していない場合は"EXT CLK"が点滅します。（→27ページ「外部クロックを基準にする」）

⑪ **再生モード／リピートモード表示部**

再生モードおよび、リピートモードを表示します。（→10ページ「再生モードを選ぶ」）（→20ページ「リピート機能」）

⑫ **ディスク／トラック表示部**

キャラクター表示部にCDテキストを表示中、表示内容に応じた表示を行ないます。

ディスク情報表示時："DISC"が点灯

トラック情報表示時："TRACK"が点灯

⑬ **キャラクター表示部**

CDテキストやメニュー項目内容を表示します。

⑭ **インクリメンタルプレイ表示部**

インクリメンタルプレイ機能がオンのときに点灯します。（→20ページ「インクリメンタルプレイ機能」）

基本操作

オンライン再生とモニター再生

CD-601MKIIにはオンライン再生とモニター再生という２種類の再生モードがあります。それぞれの再生モード時における出力先を個別に設定することができます。

たとえば放送やイベントなどの現場で、モニター再生モードを使って本番前にトラックや再生ポイントの頭出しを行なってからオンライン待機（READY）し、本番時にそのポイントからオンライン再生を行なうことができます。

本機では、UNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子をモニター出力用端子、BALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子をオンライン出力用端子として位置付けています。

ただし初期設定では、モニター再生信号もオンライン再生信号も、すべてのアナログ／デジタル出力端子から同じように出力されます。

メニューの設定を変更することで、UNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子をモニター専用出力に、あるいはBALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子をオンライン専用出力にすることができます。（→ 26ページ「オンライン出力用端子の設定」）（→ 26ページ「モニター出力用端子の設定」）

【メモ】

- 本取扱説明書では、オンライン再生待機状態を「オンラインREADY」、モニター再生待機状態を「モニターPAUSE」と表記しています。

準備

1 RC-601MKIIとCD-601MKIIを接続します。

本機に付属しているリモートケーブルを使って、本機のPLAYER UNIT端子とCD-601MKIIのREMOTE（SERIAL）端子を接続します。

⚠注意

- CD-601MKIIの電源を切った状態で接続を行なってください。接続を外す場合も同様に電源を切ってください。

2 CD-601MKII本体の操作を有効にするか無効にするかを設定します。

メニューの項目番号17（"RMT"）で、"R_L"または"R"を選択します。

R_L：RC-601MKIIとCD-601MKIIのどちらからも操作が可能です。

R：RC-601MKIIからだけ操作が可能です。OPEN/CLOSEキー、DISP MODEキー以外のCD-601MKIIの操作は無効です。

● メニュー操作については「メニュー操作」（15ページ）をご覧ください。

3 CD-601MKIIのリアパネルのPOWERスイッチをオンにします。

4 CD-601MKIIにディスクをセットします。

● ディスクのセットに関する詳細は、CD-601MKII取扱説明書の「準備」をご覧ください。

再生モードを選ぶ

PLAY MODEキーを使って再生モードを選ぶことができます。

キーを押すたびに以下の順に切り換わります。

通常再生（全曲再生）→ シングル再生 → プログラム再生

表示窓の再生モード表示部に現在の再生モードが表示されます。

再生モード	表示窓	動作
通常再生	（無表示）	ディスクのトラック順に再生（通常再生）
シングル再生	SINGLE点灯	選択したトラックだけ再生
プログラム再生	PROGRAM点灯	あらかじめ設定したプログラム順に再生

● 選択した再生モードはバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

希望の１曲を頭から演奏する（シングルプレイ）

以下に、希望の曲を選んでから曲を確認（モニター再生）した後、本番の再生（オンライン再生）を行なう手順を説明します。なお各メニュー項目が初期設定のままの状態で行なうものとします。

1 PLAY MODEキーを使って、シングルモードを選択します。

表示窓の再生モード表示部に"SINGLE"が点灯するまで、必要な回数だけPLAY MODEキーを押します。

2 AUTO CUEキーを押して、オートキュー機能をオンにします。

表示窓右上部に"A.CUE"が点灯します。

3 TRACKキーを使って、再生するトラックを選択します。

選択トラックの音声が立ち上がるポイントでオンラインREADYになります（READYキー点灯）。

● テンキーを使ってトラックを選択することもできます。この場合、２桁の入力を行ないます（例：トラック２の場合は０→２）。

● トラック選択後、オンラインREADYではなくモニターPAUSEになるような設定にすることもできます。（→19ページ「オートキューアップの設定」）

4 再生音をチェックするには、PAUSEキーを押してモニターPAUSE状態（PAUSEインジケーター点灯）にしてから、MONITORキーを押してモニター再生を行ないます（MONITORキー点灯）。

● モニター再生音のチェックは、外部のモニターシステムを使って行なうことができるほかに、CD-601MKIIまたは本機のPHONES端子に接続したヘッドホンを使って行なうことができます。本機のPHONES端子からモニターをする場合の詳細については「ヘッドホンモニター機能」（27ページ）をご覧ください。

5 確認後、READYキーを押します。

曲が始まるポイントに戻ってオンラインREADY状態になります（READYキー点灯）。

6 ON LINEキーを押してオンライン再生を始めます。

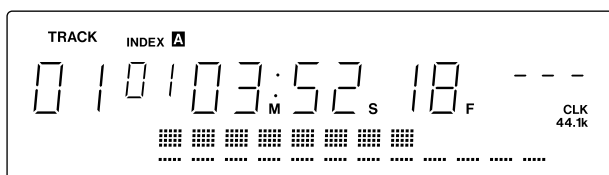
曲が終わると自動的に停止します。

● 再生を中断するときはSTOPキーを押します。

【メモ】

- 初期設定ではフェールセーフ機能がオンになっているため、オンライン再生中はSTOPキー、PLAY MODEキー、DISPLAY MODEキー、REPEATキー以外を受け付けませんが、メニューシステムを使ってフェールセーフ機能をオフにすることができます。（→27ページ「フェールセーフ機能」）

再生位置の表示

再生中、トラック内のおおよその再生位置が、表示窓のキャラクター表示部に12ドットのバーで表示されます。再生が進むにしたがって四角いドットの数が増えます。以下の例ではトラックのほぼ2/3が再生された状態を示しています。

なお、表示窓の時間表示がトラック残量モード（REMAIN）の場合、トラックの頭で四角いドットがすべて点灯し、再生が進むにつれてドットが減っていきます。

曲の途中から演奏する

曲の途中の希望のポイントを探して、そのポイントから本番の再生を行なうには、前項「希望の１曲を頭から演奏する」の手順３でトラックを選んだ後、以下の操作を行ないます。

4 PAUSEキーを押してモニターPAUSEにします。

5 サーチ（SEARCHダイアル使用）、ジョグ（JOG/DATAダイアル使用）またはモニター再生（MONITORキー使用）などの機能を使って希望のポイントを探し、モニターPAUSE状態にします。（→14ページ「曲の途中をサーチする」）

6 MONITORキーを押してモニター再生を行ない、ポイントを確認します。

7 READYキーを押します。

手順５で設定したポイントに戻ってオンラインREADY状態になります（READYキー点灯）。

設定ポイントを調整したいときは、PAUSEキーを押してモニターPAUSEにしてから手順５に戻ります。

8 ON LINEキーを押して演奏を始めます。

曲が終わると停止します。

● 演奏を中断するときはSTOPキーを押します。

キューポイントの自動登録

初期設定では、最後にモニターPAUSEからモニター再生を開始した位置がキューポイントとして自動的に登録されます。モニター再生中にREADYキーを押すと、CD-601MKIIはキューポイントにロケートしてオンラインREADYになります。

メニュー番号20（"CUE_SET"）を使うと、キューポイントを自動登録する条件として以下の２つのいずれかを選択することができます。

NOR（初期設定）：最後にモニターPAUSEからモニター再生を開始した位置をキューポイントとして自動登録します。

RDY：モニターPAUSEからモニター再生を開始した位置、またはモニターPAUSEからREADYキーを押した位置をキューポイントとして自動登録します。

20 CUESEt Nor
CUE point se

● メニューの操作方法については「メニュー操作」（15ページ）をご覧ください。

なお上記の自動登録されるキューポイントを、RC-601MKIIではテンキー（CUE 1～CUE 10）に割り当てることができます。（→23ページ「キューポイントを使った機能」）

各トランスポートキーの動作詳細

READYキー（❚❚）

このキーを押すと、CD-601MKIIがオンラインREADYになります。

オンライン再生を行なうには、いったんオンラインREADYにする必要があります。

オンラインREADY状態ではCD-601MKIIのいずれの端子からもオーディオ信号が出力されません。

オンラインREADYのポイント

オンラインREADYのポイントは、READYキーを押したときのCD-601MKIIの状態に応じてそれぞれ以下のようになります。

- トレイオープン時：ディスクのトラック1の頭
- モニターPAUSE時：READYキーを押したときのポイント
- 停止時／モニター再生時：ディスクのトラック1の頭（キューポイントが登録されていない場合）、または最後にモニターPAUSE状態からモニター再生を開始したポイント（キューポイント）
- オンライン再生時（フェールセーフ設定がオフのときのみ）：READYキーを押したときのポイント

● ただし、メモモード中（MEMOインジケーター点灯中）でAポイントが設定されている場合、AポイントでオンラインREADYになります。（→21ページ「メモポイント（A、B）を使った機能」）

【メモ】

- CD-601MKIIのディスクトレイが開いている状態でREADYキーを押すと、トレイが閉まってからトラック1の頭でオンラインREADYになります。
- フェールセーフ設定がオンの場合、オンラインREADY中にTRACKキー、テンキーなどのサーチに関するキーや、MENUキーなどを受け付けません。（→27ページ「フェールセーフ機能」）

ON LINEキー（▶）

オンラインREADY中（READYキー点灯中）にこのキーを押すと、オンライン再生が始まります。オンライン再生中、このキーが赤色に点灯します。

オンラインREADY中以外のときにこのキーを押してもオンライン再生になりません。

オンライン再生を中断するときは、STOPキーを押します。

初期設定では、オンライン再生信号はCD-601MKIIのすべてのアナログ／デジタル出力端子から出力されます。ただしメニューを使ってUNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子から出力されないように設定することができます。（→26ページ「モニター出力用端子の設定」）

【メモ】

- フェールセーフ設定がオンの場合、オンライン再生中はSTOPキー、PLAY MODEキー、DISPLAY MODEキー以外のキーを受け付けません。（→27ページ「フェールセーフ機能」）

MONITORキー（▶）

停止時、オンラインREADY時またはモニターPAUSE時にこのキーを押すと、モニター再生が始まります（キー点灯）。

初期設定では、モニター再生信号はCD-601MKIIのすべてのアナログ／デジタル出力端子から出力されます。ただしメニューを使ってBALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子から出力されないように設定することができます。（→26ページ「オンライン出力用端子の設定」）

【メモ】

- CD-601MKIIのディスクトレイが開いているときにこのキーを押すと、トレイが閉まってからトラック1の頭からモニター再生が始まります。
- 停止中にこのキーを押すと、トラック1の頭からモニター再生が始まります。
- メモポイントの音声を確認するリハーサル時は、このキーが点滅します。（→22ページ「メモポイントの音声を確認する（リハーサル）」）

PAUSEキー

停止時、オンラインREADY時またはモニター再生時にこのキーを押すと、モニターPAUSE状態になります。モニターPAUSE中は表示窓のキャラクター表示部に"PAUSE"が表示されます。

【メモ】

- フェールセーフがオフに設定してある場合、オンライン再生時にこのキーを押したときにもモニターPAUSE状態になります。（→27ページ「フェールセーフ機能」）

STOPキー（■）

オンライン再生時、オンラインREADY時、モニター再生時、モニターPAUSE時にSTOPキーを押すと、ディスクが停止します。停止中はインジケーターが点灯します。

ただしインクリメンタルプレイ機能をオンに設定している場合、オンライン再生時、モニター再生中にSTOPキーを押すと、次に再生する曲の頭で、オートキューアップの設定に従ってオンラインREADYかモニターPAUSEで待機します。

再生する場所を選ぶ

トラックを選ぶ

トラックスキップ

TRACK（⏮／⏭）キーを使ってトラックを選択（スキップ）できます。

⏮ キー：

トラックの経過時間が１秒以上のときに押すと、そのトラックの頭に戻ります。経過時間が１秒未満のときに押すと、手前のトラックの頭にスキップします。

⏭ キー：

次のトラックの頭にスキップします。もう一度押すと、その次のトラックの頭にスキップします。

- プログラム再生モード時はプログラム順に従って前後のトラックにスキップします。
- トラック１の頭で ⏮ キーを押すと最後のトラックの頭に、最後のトラックのときに ⏭ キーを押すと最初のトラックの頭にスキップします。
- 停止中に ⏮ キーまたは ⏭ キーを押すとディスクの最初のトラックの頭にスキップします。

トラック選択後の動作

TRACKキーを押してトラックを選択した後の本機の動作は、キーを押したときの本機の動作状態、オートキュー機能のオン／オフ状態、およびオートキューアップの設定によって異なります。（→ 19ページ「オートキュー機能」）

オートキュー機能がオンのとき

オートキュー機能がオンのときは、基本的にオートキューアップの設定に従って待機します。

オートキュー機能がオフのとき

TRACKキーを押した時と同じ動作状態になります。ただし、停止時またはトレイオープン時にトラック選択を行なった場合はモニター再生になります。

トラック番号指定

停止中、モニター再生中またはモニターPAUSE中、テンキーを使ってトラック番号を指定することができます。

トラックは２桁で指定します。たとえばトラック３を指定するには、"0" → "3"と押します。

なおINDEX SEARCHインジケーターが点灯しているときはテンキーがインデックス番号指定に使われるため、テンキーによるトラック指定ができません。

【メモ】

- ディスクに存在しないトラック番号を入力すると、自動的に最終トラックが選択されます。

インデックスを選ぶ

インデックススキップ

INDEX（↼／⇀）キーを使ってインデックスを選択（スキップ）できます。

↼ キー：

インデックスの経過時間が１秒以上のときに押すと、そのインデックスの頭に戻ります。経過時間が１秒未満のときに押すと、手前のインデックスの頭にスキップします。

⇀ キー：

次のインデックスの頭にスキップします。もう一度押すと、その次のインデックスの頭にスキップします。

インデックス選択後の動作モードはトラック選択の場合に準じます。オートキュー機能も働きます（インデックスの音声立ち上がりポイントで待機）。

インデックス番号指定

モニター再生中またはモニターPAUSE中、INDEX SEARCHキーを押してインデックスサーチ機能をオンにする（インジケーター点灯）と、テンキーを使ってインデックスを指定することができます。

インデックスは２桁で指定します。たとえばインデックス３を指定するには、"0" → "3"と押します。

【メモ】

- トラックに存在しないインデックス番号を入力すると、自動的に最終インデックスが選択されます。
- インデックスサーチ機能のオン／オフ設定はバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

曲の途中をサーチする

モニター再生中またはモニターPAUSE中にSEARCHダイアルやJOG/DATAダイアルを使って曲の途中をサーチすることができます。

なおフェールセーフ機能をオフにすると、オンラインREADY中にもキューサーチができます。（→27ページ「フェールセーフ機能」）

また、指定したトラック番号／経過時間にロケートすることもできます。

【メモ】

- キューサーチ時は自動的に再生出力レベルが約12dB下がります。

SEARCHダイアルを使う

モニターPAUSE、またはモニター再生中にSEARCHダイアルを使って早送り、早戻しのキューサーチができます。

JOG/DATAダイアルを使う

モニターPAUSE中にJOG/DATAダイアルを使って、１フレーム単位のサーチができます。

タイムサーチ機能

タイムサーチ機能を使うと、モニター再生またはモニターPAUSE中のトラック内の（頭からの）時間を指定してロケートすることができます。

1. TIME SEARCHキーを押してタイムサーチ機能をオンにします（インジケーター点灯）。
2. モニターPAUSE中またはモニター再生中、テンキーを使って、分、秒、フレームをそれぞれ２桁で入力します（分／秒／フレームは、トラックの頭からの経過時間です）。

   指定したポイントにロケートし、指定時と同じ動作状態（モニターPAUSEまたはモニター再生）になります。

【メモ】

- テンキーを使う他の機能（テンキーによるインデックスサーチ、タイムサーチ、ダイレクトキューポイントロケートなど）と同時に使用することはできません。
- プログラム再生モードではタイムサーチができません。タイムサーチ機能がオンのときにプログラム再生モードに設定すると、タイムサーチ機能が自動的に解除されます。

メニュー操作

メニューを使ってCD-601MKIIの各種設定を行なうことができます。メニュー操作はCD-601MKII本体とRC-601MKIIのいずれからも行なうことができ、設定内容や表示はまったく同じですが、操作に使用するキーなどが多少違います。

なお、RC-601MKIIからメニュー操作を実行中はCD-601MKII側ではメニュー操作を含むすべての操作ができません。同様に、CD-601MKIIからメニュー操作を実行中はRC-601MKII側ではメニュー操作を含むすべての操作ができません。

メニューの構成

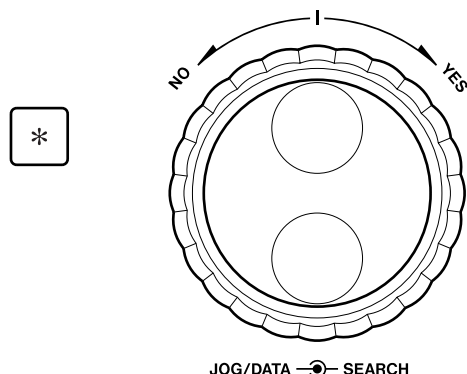
メニューには以下の項目があります。項目も内容も、CD-601MKII本体のメニューとまったく同じです。

メニュー番号	項目表示	内容表示	内容	参照個所	
01	A_CUE	Auto cue level	オートキューレベルの設定	「オートキューレベルの設定」	(p. 19)
02	ONLINE	Online play output	オンライン出力用端子の設定	「オンライン出力用端子の設定」	(p. 26)
03	MONI	Monitor output	モニター出力用端子の設定	「モニター出力用端子の設定」	(p. 26)
04	CLOCK	Clock source	動作クロックの設定	「外部クロックを基準にする」	(p. 27)
05	PROG	Program setting	プログラムの設定	「プログラム再生」	(p. 18)
06	INCR_P	Incremental play	インクリメンタルプレイのオン／オフ	「インクリメンタルプレイ機能」	(p. 20)
07	TIMER	Timer play	タイマープレイのオン／オフ	「タイマープレイ機能」	(p. 29)
08	OUTPUT	Output stereo mono	出力のステレオ／モノラル設定	「ステレオ／モノラル設定」	(p. 26)
09	OUT_L	Output level	出力レベルの設定	「出力レベル設定」	(p. 26)
10	F_SAFE	Fail safe	オンライン再生／READY中の フェールセーフ機能のオン／オフ	「フェールセーフ機能」	(p. 27)
11	EOM	End of music time	トラックの終了予告表示の設定	「トラックの終了予告を表示する」	(p. 28)
12(*)	E_CHK	End check time	エンドチェックの時間設定	「トラックのエンディングをチェックする」	(p. 28)
13(*)	BANK	Memory BANK select	メモリーバンクの切り換え	「ディスク情報を保存する」	(p. 25)
14(**)	F_STAR	Fader start polarity	フェーダースタートの極性設定	CD-601MKII取扱説明書	
15(**)	F_STOP	Fader stop state	フェーダーストップ時の本機の状態設定	CD-601MKII取扱説明書	
16	CUE_UP	Auto CUE up state	オートキュー、オートレディなどの時の 本機の待機モードの設定	「オートレディ機能」	(p. 19)
17(*)	RMT	Remote control	リモコン(*)（RC-601MKII）使用時の 本体操作の有効／無効設定	「準備」	(p. 10)
18	FRAME	Frame display	表示窓の時間表示部の フレーム表示の設定	「フレーム表示を消す」	(p. 29)
19	TIME	Time display	時間表示の切り換えパターンの設定	「時間表示を切り換える」	(p. 28)
20	CUESET	Cue point set	キューポイント設定	「キューポイントの自動登録」	(p. 11)
20	A_CLR	Memory ALL clear	メモリーオールクリア	「メニュー設定のクリア」	(p. 17)
22	USER	User setting	設定内容を保存する ユーザーバンクの呼び出し	「メニュー設定の保存」	(p. 17)
23(**)	RS232C	Com PORT baud rate	RS232Cのボーレート設定	CD-601MKII取扱説明書	
(ナシ)	xxxxH	Motor addition time display	モーターの駆動積算時間表示	「モーター積算時間を見る」	(p. 29)

※ 表中の(*)が付いているメニュー項目は、RC-601MKIIリモートコントロールユニット接続時に有効な項目です。

※ 表中の(**)が付いている項目は外部コントロール関連項目です。これらについては、CD-601MKII取扱説明書をご覧ください。

メニュー操作の基本

メニューモードに入るときとメニューモードを終了するときにMENUキーを使い、メニューモード内での操作にはSEARCHダイアル、JOG/DATAダイアル、＊キーを使います。

1 MENUキーを押します。

表示窓にメニュー画面が表示されます。

各メニュー画面には以下の内容が表示されます。

2 JOG/DATAダイアルを使って希望のメニュー項目を選択します。

右に回すと、メニュー番号が上がります。

左に回すと、メニュー番号が下がります。

● この段階ではメニュー番号が点滅し、メニュー項目を選択中であることを示します。

● メニュー項目内容は、画面の切り換え直後にスクロール表示され、そのあと冒頭の12文字が固定表示されます。メニュー項目によっては、項目内容だけでなく、個々の設定値の内容も表示されます。

3 ＊キーを押すか、またはSEARCHダイアルを右（YES側）に回してメニュー項目を確定します。

メニュー番号が点滅から点灯に変わります。

● 以下の操作手順（4～6）は、メニュー番号05（"PROG"）、メニュー番号21（"A_CLR"）、およびモーター積算時間表示には適用されません。

4 JOG/DATAダイアルを使って希望の設定値を選択します。

現在の設定値を変更すると値が点滅します。

5 ＊キーを押すか、またはSEARCHダイアルを右（YES側）に回して設定値を確定します。

6 設定を終えたら、MENUキーを押してメニューモードを終了します。

【メモ】

- メニュー項目名のアルファベットは下のように表示されます。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

- RC-601MKIIでメニュー操作を行なっているときは、CD-601MKII本体ではメニュー操作を含むすべての操作ができません。
- 同様に、CD-601MKII本体でメニュー操作を行なっているときは、RC-601MKIIではメニュー操作を含むすべての操作ができません。

メニュー設定の保存

各メニュー項目の設定内容をユーザーバンクに保存することができます。

5 つのユーザーバンク（U1 〜 U5）が用意され、本体の電源をオフにしたときのメニュー設定が選択中のユーザーバンクに記憶されます。

作業内容別に最適なメニュー設定を別々のユーザーバンクに保存しておくと便利です。

メニュー番号 22（"USER"）を使ってユーザーバンクを選択することができます。

選択肢：U1（初期設定）〜 U5、PRE

22 USEr PrE
USER setting

電源をオンにしたときは、選択中のユーザーバンクに保存されているメニュー設定状態が再現されます。PRE を選択している場合はメニュー設定はすべて初期設定になります。

作業中に上記のメニュー項目（"USER"）を使ってユーザーバンクを変更すると、新しく選択されたユーザーバンクのメニュー設定に変わります（電源を入れ直す必要はありません）。

メニュー設定のクリア

ユーザーバンクに保存されているメニュー設定をクリアして、初期設定に戻すことができます。ユーザーバンクの一括クリアとユーザーバンクごとのクリアができます。

すべてのユーザーバンクをクリアする

前述のメニュー番号 22 の設定を"PRE"にして、メニュー番号 21（"A_CLR"）を使ってクリアします（オールクリア）。

メニュー番号 21（"A_CLR"）を選択すると、"SURE?"が表示されますので、＊キーを押します（または **SEARCH** ダイアルを右に回します）。

ユーザーバンク（U1 〜 U5）に保存されているすべてのメニュー設定情報がクリアされ、初期設定に戻ります。

【メモ】

- オールクリアによって、メモリーバンク（A 〜 E）のディスク情報もクリアされます。

ユーザーバンクごとにクリアする

1 前述のメニュー番号 22 で、クリアしたいユーザーバンクを選択します。

2 **CLR** キーを押します。

再生に関する機能

プログラム再生

プログラム再生機能を使って、希望のトラック順に再生することができます。最大 30 トラックのプログラムが可能です。

プログラムモードにする

PLAY MODE キーを使って、プログラムモードを選択します。

表示窓のメッセージ表示部に"PROGRAM"が表示されるまで、必要な回数だけ PLAY MODE キーを押します。

プログラムモードでは、以下に述べる方法で作成したプログラムに従って再生を行ないます。

プログラムを作成する

1 MENU キーを押してメニューモードにします。

2 JOG/DATA ダイアルを使ってメニュー番号 05（"PROG"）を選択してから、＊キーを押すか、または SEARCH ダイアルを右（YES 側）に回します。

プログラム設定画面になります。

3 テンキー、TRACK キーまたは JOG/DATA ダイアルを使って希望のトラックを選び、SEARCH ダイアルを右（YES 側）に回します。

選択したトラックがプログラムの 1 曲目（プログラムナンバー 01）として設定され、次の曲（プログラムナンバー 02）を設定できる状態になります。

4 上記手順 3 を必要なだけ繰り返して、希望のプログラムを作成します。

5 プログラムの作成を終えたら MENU キーを押してメニューモードを終了します。

プログラムしたトラックを差し替える

プログラム設定画面表示中、プログラムしたトラックを以下の手順で差し替えることができます。

1 SEARCH ダイアルを使って、差し替えたいプログラムナンバーを選びます。

2 テンキー、TRACK キーまたは JOG/DATA ダイアルを使って希望のトラックを選び、＊キーを押します（または SEARCH ダイアルを右に回します）。

3 トラックの差し替えを終えたら、MENU キーを押してメニューモードを終了します。

プログラム曲を追加する

プログラム設定画面表示中、以下の手順でプログラム曲を追加することができます。

1 SEARCH ダイアルを使って、曲を追加する個所を選びます。

たとえば現在プログラムナンバー２と３に設定されている曲の間に新たに曲を追加する場合、プログラムナンバー３を選びます。

2 ＊キーを押します。

3 テンキー、TRACK キーまたは JOG/DATA ダイアルを使って追加するトラックを選び、＊キーを押します（または SEARCH ダイアルを右に回します）。

4 曲の追加を終えたら、MENU キーを押してメニューモードを終了します。

プログラム曲を削除する

プログラム設定画面表示中、以下の手順でプログラム曲を削除することができます。

1 SEARCH ダイアルを使って、削除したい曲が設定されているプログラムナンバーを選びます。

2 CLR キーを押します。

曲が削除され、以降の曲のプログラム番号が繰り上がります。

3 曲の削除を終えたら、MENU キーを押してメニューモードを終了します。

プログラムをクリアする

トレイをオープンするとプログラムがクリアされます。

【メモ】

- ディスクを入れた状態で電源をオフにしてもプログラム設定はクリアされません。

オートキュー機能

オートキュー機能をオンにすると、トラックを選択したときやオートレディ機能オン時に、自動的にトラックの音声立ち上がりポイントで待機（オンラインREADYまたはモニターPAUSE）します。（→13ページ「トラックを選ぶ」）

AUTO CUEキーを押してオートキュー機能のオン／オフを行ないます。オートキュー機能がオンのとき、表示窓に"**A.CUE**"が点灯します。

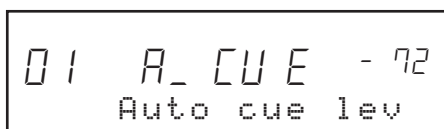
● オートキュー機能のオン／オフ設定はバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

オートキュー機能オンでトラックの音声立ち上がりポイントサーチ後、本機がオンラインREADYになるかモニターPAUSEになるかは、以下に説明するオートキューアップ設定によって決まります。

オートキューレベルの設定

メニュー番号01（"A_CUE"）を使って、オートキューレベルを以下の中から選びます。選択したトラックでオートキューレベル以上の信号が最初に出現するポイントが音声立ち上がりポイントとして認識されます。

選択肢：－72dB（初期設定）、－66dB、－60dB、
－54dB、－48dB

01 A_CUE -72
Auto cue lev

オートキューアップの設定

メニュー番号16（"CUE_UP"）を使って、オートキュー機能が動作したときに本機がオンラインREADYになるかモニターPAUSEになるかを選びます。

選択肢：RDY（オンラインREADY、初期設定）、
PUS（モニターPAUSE）

16 CUE_UP rdY
Auto CUE up

【メモ】

- オートレディ機能が動作したときにも、オートキューアップの設定に従ってオンラインREADYまたはモニターPAUSEになります。

オートレディ機能

オートレディ機能をオンにすると、トラック再生後に次のトラックの頭で待機します。

AUTO READYキーを押してオートレディ機能のオン／オフを行ないます。オートレディ機能がオンのとき、表示窓に"**A.READY**"が点灯します。

● オートレディ機能のオン／オフ設定はバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

オートレディ機能が動作すると、メニュー番号16（"CUE_UP"）の設定に従って、本機がオンラインREADYまたはモニターPAUSEになります。（→前述「オートキューアップの設定」）

また再生モードによって、以下のポイントで待機します。

通常再生：　次トラックの頭

シングル再生：　現在のトラックの頭

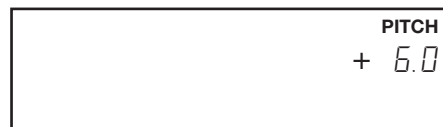
プログラム再生：　次にプログラムされているトラックの頭

【メモ】

- オートレディ機能とオートキュー機能とを併用すると、トラック再生後に次のトラックの音声立ち上がりポイントで待機します。

ピッチコントロール機能

ピッチコントロール機能を使って、±12.5%の範囲で再生スピードを調節できます。

PITCH CONTROLキーを押してピッチコントロール機能のオン／オフを行ないます。ピッチコントロール機能がオンのとき、表示窓に"**PITCH**"表示および現在のピッチコントロール値が点灯します。

ピッチコントロール機能がオンのとき、＋／－キーを使ってピッチコントロール値を設定できます（0.1%単位）。

＋キーと－キーを同時に押すと0.0%にリセットされます。

● ピッチコントロール機能のオン／オフおよびピッチコントロール値の設定はバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

【メモ】

- ピッチコントロールが働いているときでも、本機のデジタル出力端子からは常にサンプリング周波数44.1kHzのデジタル信号が出力されます。ただし48kHzの外部ワードクロック信号に同期している時は、サンプリング周波数48kHzのデジタル信号が出力されます。

インクリメンタルプレイ機能

インクリメンタルプレイ機能をオンにすると、以下の動作になります。

モニター再生中にMONITORキーを押すと：

次のトラックの頭にスキップしてモニター再生になります。

モニター再生中、オンライン再生中にSTOPキーを押すと：

次のトラックの頭にスキップして待機します。オンラインREADYかモニターPAUSEのどちらで待機するかはオートキューアップの設定によります。

フェールセーフ機能がオフでオンライン再生中にONLINEキーを押すと：

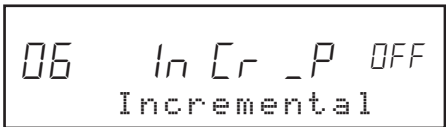
次のトラックの頭にスキップしてオンライン再生になります。

【メモ】

- プログラム再生モード中は次のプログラムステップのトラックの頭にスキップします。シングル再生モード中は現在のトラックの頭にスキップします。
- メモモード中（MEMOインジケーター点灯中）は、Aポイントが設定されているとAポイントでモニターPAUSE、Bポイントのみ設定されているとトラック1の頭でモニターPAUSEになります。（→21ページ「メモポイント（A、B）を使った機能」）

インクリメンタルプレイ機能のオン／オフは、メニュー番号06（"INCR_P"）を使って行ないます。

選択肢：OFF（初期設定）、ON

```
06    In Cr _P  OFF
   Incremental
```

リピート機能

オンライン再生およびモニター再生において、ディスク全体、現在のトラック、プログラム全体、または指定区間を繰り返し再生することができます。

REPEATキーを押してリピート機能のオン／オフを行ないます。オンのとき、REPEATキー上部のインジケーターが点灯し、表示窓の左下部に"REPEAT"が表示されます。

リピート再生する範囲は、以下のように再生モードとリンクしています。指定区間のリピートについては「A-B間をリピート再生する」（22ページ）をご覧ください。

再生モード	リピート動作
通常再生（全曲再生）モード	ディスク全体のリピート再生
シングルモード	現在のトラックのリピート再生
プログラムモード	プログラム全体のリピート再生

メモポイント（A, B）を使った機能

あらかじめメモポイント（A、B）を設定しておくことにより、2つのポイント間の再生やリハーサル再生、あるポイントでの自動停止などが可能です。

● プログラム再生モード時は、以下に述べるメモポイントを使った機能を使うことができません（メモポイントの設定、ロケートはできます）。また、メモモード中はプログラム再生モードにすることができません。

メモポイントを設定する

1 モニターPAUSE中に**JOG/DATA**ダイアルを使って設定したいポジションを探します。

2 **SET**キーを押して、セットモードにします（インジケーター点灯）。

3 **A**キー（または**B**キー）を押します。

Aポイント（またはBポイント）が設定されます。

設定されるとキーのインジケーターが点灯し、**SET**インジケーターが消灯します。

【メモ】

- あらかじめ**SET**キーを押してセットモードにしておくと（**SET**インジケーター点灯）、モニター再生中（またはモニターPAUSE中）に希望の位置で**A**キー（または**B**キー）を押すことにより、ポイント設定することができます。
- すでにポイントが設定されている場合、新しいポイントによって上書きされます。

● CD-601MKIIの電源をオフにしたりディスクを取り出したりすると、設定したメモポイントはすべて消去されます。

メモポイントをディスク情報としてCD-601MKII本体のメモリーに保存しておくと、あとで同じディスクをセットしたときに呼び出すことができます。（→25ページ「ディスク情報を保存する」）

メモポイントにロケートする

1 **RCL**キーを押します。

RCLインジケーターが点灯します。

2（メモポイントが設定されている）**A**または**B**キーを押します。

設定したポイントにロケートし、オンラインREADYになります（**RCL**インジケーターは消灯します）。

メモポイントの時間を確認する

メモポイント時間を確認する方法は2通りあります。

方法1

1 停止中またはモニターPAUSE中、**MEMO**キーを押してメモモードにします（**MEMO**インジケーター点灯）。

2 確認したいメモポイントのキー（**A**または**B**）を押します。

押したキーに対応するインジケーターが点滅し、表示窓にメモポイントの時間が表示されます。

3 確認後、メモポイントのキーを再度押します。

キーに対応するインジケーターが点滅から点灯に変わり、通常の時間表示に戻ります。

4 **MEMO**キーを押してメモモードを終了します（**MEMO**インジケーター消灯）。

方法2

メモモード中（**MEMO**インジケーター点灯中）、**CHECK**キーを押すたびにAポイント、Bポイント、現在の時間が表示されます。

メモポイント設定を消去する

設定されているメモポイントを消去する方法は2通りあります。

方法1

1 停止中、**SET**キーを押してセットモードにします（インジケーター点灯）。

2 設定を消去したいメモポイントのキー（**A**または**B**キー）を押します。

メモポイント設定が消去され、メモポイントのインジケーターが消灯します。

SETインジケーターが消灯します。

方法2

1 メモモード中（**MEMO**インジケーター点灯中）、消去したいメモポイント設定が表示窓に表示されるまで**CHECK**キーを押します。

2 **CLR**キーを押します。

メモポイント設定が消去され、メモポイントのインジケーターが消灯します。

メモポイントの音声を確認する（リハーサル）

Aポイントからの数秒間、あるいはBポイントまでの数秒間を確認することができます。

つまり任意に設定したA-B区間の始まりかたと終わりかたをチェックすることができます。

1 停止中またはモニターPAUSE中、MEMOキーを押してメモモードにします（MEMOインジケーター点灯）。

2 確認したいメモポイントのキー（AまたはB）を押します。

押したキーに対応するインジケーターが点滅し、表示窓にメモポイントの時間が表示されます。

3 MONITORキーを押します。

リハーサル再生が始まり、MONITORキーが点滅します。

リハーサル再生する時間の長さは、メニュー番号12（エンドチェックの時間設定）で設定した時間（＝エンドチェックタイム）になります。（→28ページ「トラックのエンディングをチェックする」）

手順2で押したキー（Aキーまたは Bキー）によって、リハーサル動作が異なります。

Aキーの場合：

Aポイントから再生が始まり、エンドチェックタイム分を再生後、AポイントでオンラインREADYになります。リハーサル再生を終えるとAインジケーターが点灯に変わります。

Bキーの場合：

エンドチェックタイム分Bポイントの手前から再生が始まり、Bポイントまで再生した後、AポイントでオンラインREADYになります。リハーサル再生を終えるとBインジケーターが点灯に変わります。

Aポイントから再生する

Aポイントだけが設定されている場合、メモモード（MEMOインジケーター点灯）中にモニター再生またはオンライン再生を行なうと、Aポイントから再生を始めます。

通常再生（全曲再生）モードの場合はディスクの最後まで再生し、シングル再生モードの場合はそのトラックの最後まで再生します。

Bポイントまで再生する

Bポイントだけが設定されている場合、メモモード（MEMOインジケーター点灯）中にモニター再生またはオンライン再生を行なうと、Bポイントまで再生後に停止します。

【メモ】

- シングル再生モードの場合でBポイントの含まれるトラック以外のトラックを再生した場合、Bポイントとは無関係にシングル再生を行ないます。

A-B間を再生する

AポイントとBポイントの両方が設定されている場合、メモモード（MEMOインジケーター点灯）中にモニター再生またはオンライン再生を行なうと、A-B間を再生します。再生終了後の状態は以下のとおりです。

モニター再生後：

オートキューアップ設定に従ってオンラインREADYまたはモニターPAUSEになります。

オンライン再生後：

停止します。

A-B間をリピート再生する

メモモードとリピートモードとを組み合わせることにより、A-B間をリピート再生することができます。（→20ページ「リピート機能」）

以下の操作では、あらかじめAポイントとBポイントの両方が設定されているものとします。

1 停止中、PLAY MODEキーを使って通常再生（全曲再生）モードにします。

2 REPEATキーを押してリピート機能のオン／オフを行ないます。オンのとき、REPEATキー上部のインジケーターが点灯し、表示窓の左下部に"REPEAT"が表示されます。

3 MEMOキーを使ってメモモードにします（MEMOインジケーター点灯）。

4 MONITORキーまたはON LINEキーを押して、モニター再生またはオンライン再生を行ないます。

A-B間リピート再生が始まります。

【メモ】

- シングル再生モード時はA-B間リピートができません。上記操作を行なうと、手順4のあと、Aポイントに戻ってモニターPAUSEまたはオンラインREADYになります。

キューポイント（CUE1～CUE10）を使った機能

キューポイントを設定しておくことにより、ポイントロケート、ポイントからのフラッシュ（瞬時）再生などが可能です。

１枚のディスクについて最大１０コのキューポイントを設定し、それをテンキー（CUE １～CUE １０）に割り当てることができます。

キューポイントを設定する

1 モニターPAUSE中に**JOG/DATA**ダイアルなどを使って希望のポイントを探した後、モニター再生を行ないます。この操作によりキューポイントが自動的に登録されます。（→１１ページ「キューポイントの自動登録」）

2 **SET**キーを押してセットモードにします。

インジケーターが点灯します。

3 テンキー（０～９）のいずれかを押します。

この操作により手順**1**で自動登録されたキューポイントが、そのテンキーに割り当てられます。

押したテンキーの**CUE**インジケーターが緑色に点灯し、**SET**インジケーターが消灯します。

4 上記の操作を繰り返すことにより、最大１０ポイントのキューポイントを設定できます。

【メモ】

- オンライン再生中、オンラインREADY中、フラッシュレディ中はキューポイントの登録ができません。
- すでにキューポイントが設定されている場合、新しいポイントによって上書きされます。
- テンキーを使う他の機能（インデックスサーチ、タイムサーチなど）がオンになっているときは、キューポイントの登録ができません。

● CD-601MKIIの電源を切ったりディスクを取り出したりすると、設定したキューポイントはすべて消去されます。

キューポイントをディスク情報としてCD-601MKII本体のメモリーに保存しておくと、あとで同じディスクをセットしたときに呼び出すことができます。（→２５ページ「ディスク情報を保存する」）

キューポイントにロケートする

設定されているキューポイントにロケートするには以下の操作を行ないます。

以下の操作はキューポイントが少なくとも１つ設定されている（テンキー０～９の少なくとも１つが点灯している）ことを前提としています。

1 **RCL**キーを押します。

インジケーターが点灯します。

2 点灯しているテンキーの中から希望のキーを押します。

キューポイントにロケートし、オートキューアップ設定（メニュー番号１６で設定）に従ってオンラインREADYまたはモニターPAUSEになります。（→１９ページ「オートキューアップの設定」）

RCLキーはテンキーを押した時点で消灯します。

ダイレクトキューポイントロケート

キューポイントロケートを頻繁に行なうような作業では、ダイレクトキューポイントロケート機能を使うと便利です。

以下の操作はキューポイントが少なくとも１つ設定されている（テンキー０～９の少なくとも１つが点灯している）ことを前提としています。

1 **RCL**キーを２回続けて押します。

RCLインジケーターが点滅し、ダイレクトキューポイントロケートモードであることを示します。

2 点灯しているテンキーの中から希望のキーを押します。

キューポイントにロケートし、オートキューアップ設定（メニュー番号１６で設定）に従ってオンラインREADYまたはモニターPAUSEになります。（→１９ページ「オートキューアップの設定」）

RCLキーは、テンキーを押してロケートを実行した後も点滅したままになっています。つまり、ダイレクトキューポイントロケートモードは解除されません。したがってこの後、テンキーを押すだけで別のキューポイントにロケートすることができます。

ダイレクトキューポイントロケート機能を解除するには、**RCL**キーを押します（インジケーター消灯）。

キューポイントの時間を確認する

CHECKキーを使って、登録されているキューポイントやメモポイントの時間をチェックすることができます。

1 メモモードがオフのとき（MEMOインジケーター消灯中）、CHECKキーを押します。

押すたびに表示窓に各キューポイント（1～10）⇒最後に自動登録されたキューポイント⇒現在の時間が表示されます。

キューポイント設定を消去する

設定されているメモポイントを消去する方法は2通りあります。

方法1

1 停止中、SETキーを押してセットモードにします（インジケーター点灯）。

2 設定を消去したいキューポイントのキー（0～9キー）を押します。

キューポイント設定が消去され、キューポイントのインジケーターが消灯します。

SETインジケーターが消灯します。

方法2

1 メモモードがオフのとき（MEMOインジケーター消灯中）、CHECKキーを使って、消去したいメモポイント設定を表示します。

2 CLRキーを押します。

キューポイント設定が消去され、キューポイントのインジケーターが消灯します。

フラッシュスタート

フラッシュスタート機能を使うと、設定したキューポイントから瞬時に再生することができます。

1 キューポイントを設定します。（→23ページ「キューポイントを設定する」）

2 モニターPAUSE中、FLASH READYキーを押します。

キューポイントの先頭部分の再生データがCD-601MKIIのバッファメモリーに読み込まれます。読み込み中はFLASH READYインジケーターが点滅し、表示窓には"DATA LOAD XX"（XXはキューポイント番号）が表示されます。読み込みが終了すると、FLASH READYインジケーターが点灯になります。

【メモ】

- 読み込み中はSTOPキー以外の操作を受け付けません。STOPキーを押すと、読み込みがキャンセルされ、FLASH READYキーが消灯します。

3 FLASH MODEキーを押してフラッシュスタートモードにします（FLASH MODEインジケーター点滅）。

4 設定されているキューポイントのテンキーを押します。

キューポイントから瞬時に再生が始まります。

フェールセーフ設定にかかわらず、オンラインREADYまたはオンライン再生中にテンキーを押すと、オンライン再生になります。モニターPAUSEまたはモニター再生中にテンキーを押すと、モニター再生になります。

5 フラッシュスタートモードを解除するには再度FLASH MODEキーを押します。

【メモ】

- フラッシュレディを解除するにはモニターPAUSE中にFLASH READYキーを3秒以上押しつづけます。表示窓に"CLEAR FLASH"と表示されFLASH READYインジケーターが消灯します。
- フラッシュスタートモード中は、テンキーを使う他の機能（テンキーによるインデックスサーチ、タイムサーチ、ダイレクトキューポイントロケート）を使用できません。
- FLASH READYインジケーターが点灯していないとフラッシュスタートモードに入ることができません。
- FLASH READYインジケーターが点灯している間、新たなキューポイントを設定することができません。

ディスク情報の保存

ディスクごとに設定したキューポイントなどの情報をCD-601MKII本体のメモリーに保存することができます。

キューポイント情報以外にディスクID、A/Bメモポイント、ピッチコントロール値、再生モード、時間表示モードといったディスク情報が保存されます。

メモリーバンク

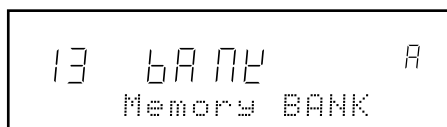
ディスク情報はCD-601MKII本体のメモリーに記憶されます。メモリー内には５つのバンク（A～E）があり、各バンクあたり100枚分のディスクの情報を記憶できます。１枚のディスクに対しては最大10ポイントを登録することができます。

同じディスクのディスク情報を同じバンク内に重複して記憶することはできませんが、異なるバンクに記憶することは可能です。

ディスク情報を保存する

以下の保存操作によって、ディスク情報がCD-601MKII内部メモリーに保存されます。

1　メニュー番号13（"BANK"）を使って、保存先のメモリーバンク（A～E）を選択します。

13 bANK A
Memory BANK

2　**SET**キーを押してセットモードにします。

SETインジケーターが点灯します。

3　＊キーを押します。

ディスク情報がバンクに保存され、表示窓のメモリー表示（"**M**"）が点灯します。

SETインジケーターが消灯します。

● すでに同じディスクのディスク情報が保存されている場合、上書きしてよいかどうかの確認のメッセージ（"Over write?"）が表示されます。上書きする場合は、再度＊キーを押すか、**SEARCH**ダイアルを右（YES）方向に回します。上書き保存しない場合は**CLR**キーを押すか、**SEARCH**ダイアルを左（NO）方向に回します。

● また、他の100枚分のディスク情報が保存されている場合も、上書きしてよいかどうかの確認のメッセージ（"Over write?"）が表示されます。

上書きする場合は、**JOG/DATA**ダイヤルで上書きするメモリーNo.1～100のいずれかを選択し、再度＊キーを押すか、**SEARCH**ダイアルを右（YES）方向に回します。上書き保存しない場合は**CLR**キーを押すか、**SEARCH**ダイアルを左（NO）方向に回します。

ディスク情報を読み込む

ディスク情報があらかじめCD-601MKIIの内部メモリーに保存されているディスクをセットすると、表示窓にメモリー表示（"**M**"）が点灯します。

ディスク情報を読み込むには以下の操作を行ないます。

1　**RCL**キーを押します。

RCLインジケーターが点灯し、表示窓内の"**M**"が点滅します。

2　＊キーを押します。

ディスク情報が読み込まれ、表示窓内の"**M**"が点灯に変わります。

RCLインジケーターが消灯します。

ディスク情報をクリアする

CD-601MKIIの内部メモリーに保存されているディスク情報をクリアすることができます。以下の操作により、すべてのバンクのディスク情報が一括してクリアされます。

メニュー番号21（"A_CLR"）を選択すると、"SURE?"が表示されますので、再度＊キーを押します（または**SEARCH**ダイアルを右に回します）。

21 A_CLr
Memory ALL c

メニュー番号22（"USER"）の設定によってクリアされる内容が以下のように異なります。（→17ページ「メニュー設定の保存」）

- "**U1**"～"**U5**"に設定時：すべてのディスク情報をクリア
- "**PRE**"に設定時：すべてのディスク情報をクリアし、ユーザーバンク"U1"～"U5"のメニュー設定内容を初期設定に戻します。

出力に関する設定

オンライン出力用端子の設定

BALANCEDアナログ出力端子とAES/EBUデジタル出力端子は、基本的にオンライン出力用の端子として用意されています。初期設定ではモニター再生信号とオンライン再生信号の両方がこれらの端子から出力されますが、メニュー番号02（"ON LINE"）を使って、これらの出力端子からオンライン再生信号だけが出力されるように設定することができます。

OFF（初期設定）：

オンライン再生時もモニター再生時も、BALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子からオーディオ信号を出力。

ON：

オンライン再生時のみ、BALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子からオーディオ信号を出力。

```
02  OnLinE  OFF
 Online play
```

モニター出力用端子の設定

UNBALANCEDアナログ出力端子とSPDIFデジタル出力端子は、基本的にモニター出力用の端子として用意されています。初期設定ではモニター再生信号とオンライン再生信号の両方がこれらの端子から出力されますが、メニュー番号03（"MONI"）を使って、これらの出力端子からモニター再生信号だけが出力されるように設定することができます。

OFF（初期設定）：

オンライン再生時もモニター再生時も、UNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子からオーディオ信号を出力。

ON：

モニター再生時のみ、UNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子からオーディオ信号を出力。

```
03  moni    OFF
 Monitor outp
```

ステレオ／モノラル設定

再生出力信号をモノラルにすることができます。

メニュー番号08（"OUTPUT"）を使って設定します。

選択肢：ST（ステレオ、初期設定）、MONO（モノラル）

```
08  OUtPUt  St
 Output stere
```

出力レベル設定

BALANCEDアナログ出力端子の最大出力レベルを選択することができます。

メニュー番号09（"OUT_L"）を使って選択します。

選択肢：＋24（初期設定）、＋22、＋20、＋15（dBu）

```
09  OUt_L  +24
 Output level
```

その他の機能／設定

ヘッドホンモニター機能

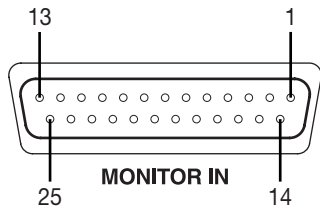
RC-601MKIIでは、外部機器のステレオオーディオ出力信号（最大４系統）を入力して、PHONES端子に接続したヘッドホンを使ってモニターすることができます。

オーディオ信号の接続

リアパネルのMONITOR IN端子に最大４系統のステレオオーディオ信号を入力することができます。

以下のピン配列に従って、外部機器のオーディオ出力（最大入力レベル：+6 dBV、アンバランス）との接続を行なってください。

【メモ】

- RC-601MKIIと接続しているCD-601MKIIのオーディオ出力信号をモニターする場合もMONITOR IN端子への接続が必要です。

MONITOR INピン配列

ピンNo.	信号名	
1	Lch IN1	モニター入力1 Lch
2	Rch IN1	モニター入力1 Rch
3	N.C.	
4	Lch IN2	モニター入力2 Lch
5	Rch IN2	モニター入力2 Rch
6	N.C.	
7	Lch IN3	モニター入力3 Lch
8	Rch IN3	モニター入力3 Rch
9	N.C.	
10	Lch IN4	モニター入力4 Lch
11	Rch IN4	モニター入力4 Rch
12	N.C.	
13	N.C.	
14	Lch GND1	モニター入力1 Lch シールド
15	Rch GND1	モニター入力1 Rch シールド
16	N.C.	
17	Lch GND2	モニター入力2 Lch シールド
18	Rch GND2	モニター入力2 Rch シールド
19	N.C.	
20	Lch GND3	モニター入力3 Lch シールド
21	Rch GND3	モニター入力3 Rch シールド
22	N.C.	
23	Lch GND4	モニター入力4 Lch シールド
24	Rch GND4	モニター入力4 Rch シールド
25	N.C.	

ヘッドホンモニターする

MONITOR SELECTつまみを使って、ヘッドホンモニターのソースを選択します。選択したソース信号がPHONES端子から出力されます。

LEVELつまみを使って、モニターレベルを調節します。

外部クロックを基準にする

本機を外部デジタルクロックを基準に動作させることができます。

1 CD-601MKIIリアパネルのWORD SYNC IN端子に外部からのワードクロックを供給します。

2 メニュー番号04（"CLOCK"）を"EXT"に設定します。

表示窓のクロック表示部に"EXT CLK"およびサンプリング周波数（"44.1k"または"48k"）が点灯します。

初期設定は"INT"（内部クロック基準）です。

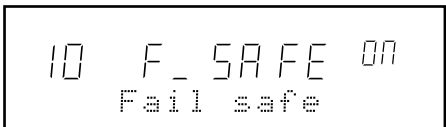
フェールセーフ機能

フェールセーフ機能は、本番中に誤って操作キーに触れたときに再生を中断しないための安全機能です。

初期設定ではフェールセーフ機能がオンになっていて、オンライン再生中はSTOPキー、PLAY MODEキー、DISPLAY MODEキー以外のキーを受け付けません。またオンラインREADY中は、TRACKキー、テンキーなどのサーチに関するキーやMENUキーを受け付けません。

【メモ】

- フェールセーフ機能がオンのときでも、ダイレクトキューポイントロケートモードやフラッシュスタートモードのときはテンキー入力を受け付けます。

メニュー番号10（"F_SAFE"）を使ってフェールセーフ機能をオフ（"OFF"）にすると、すべてのキー（オンライン再生中のSEARCHダイアル、FLASH READYキー、MEMOキーを除く）が働きます。

フェールセーフ機能のオン／オフ設定はCD-601MKII本体とRC-601MKIIの両方に対して有効です。

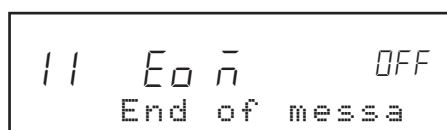
トラックの終了予告を表示する

オンライン再生やモニター再生中、表示窓にトラックの終了予告（EOM＝End Of Message）を表示することができます（初期設定では表示しません）。

表示するように設定すると、終了までの時間をカウントダウン表示します。

メニュー番号11（"EOM"）を使って、終了予告表示の設定を行ないます。

OFF（初期設定）：終了予告を表示しません。

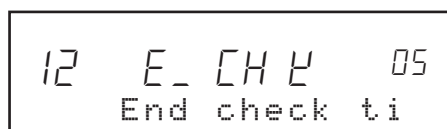
10、15、20、30、60、90：それぞれの秒数分手前からカウントダウン表示が始まります。

トラックのエンディングをチェックする

END CHECKキーを押してエンドチェック機能をオン（インジケーター点灯）にすると、トラックのエンディングをモニターすることができます。トラックの終わり方をチェックしたいときに便利です。

1 メニュー番号12（"E_CHK"）を使って希望のエンドチェックタイムを設定します。

設定した時間分、トラックのエンディング部分をモニターすることができます。

設定範囲は５秒〜30秒です（１秒単位)。初期設定は５秒です。

12 E_CHK 05
End check ti

2 **END CHECK**キーを押してエンドチェック機能をオン（インジケーター点灯）にします。

3 停止中、モニター再生中、モニターPAUSE中に、**TRACK**キーを使ってエンドチェックしたいトラックを選択します。

停止中、モニター再生中には、トラックのエンディング部分があらかじめ設定したエンドチェックタイム分モニター再生されます。

モニターPAUSE中には、トラックのエンディング部分の、あらかじめ設定したエンドチェックタイム分の位置でモニターPAUSEで待機します。

エンドチェック機能をオフにするには：

END CHECKキーを押すか、**READY**キーまたは**STOP**キーを押します。

【メモ】

- モニターPAUSE中にトラックを選択すると、トラックのエンドポイントからエンドチェックタイム分手前のポイントでモニターPAUSEになります。
- CD-601MKII本体の**TRACK**キーを使ってトラック選択を行なった場合はエンドチェック機能が働きません。

時間表示を切り換える

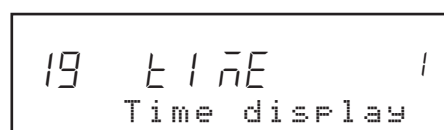
再生中、**DISPLAY MODE**キーを押すたびに表示窓内の時間情報が切り換わります。初期設定では「トラック経過時間」と「トラック残時間」の間で切り換わります。

メニュー番号19（"TIME"）では、**DISPLAY MODE**キーを使って切り換える時間表示の種類を選択することができます。選択肢は１〜４で表示されます。

1（初期設定）：トラック経過時間 ⇔ トラック残時間

2：トラック経過時間 ⇔ トラック残時間 ⇔ ディスク残時間

3：トラック経過時間 ⇔ トラック残時間 ⇔ ディスク残時間 ⇔ ディスク総時間

4：トラック経過時間 ⇔ トラック残時間 ⇔ ディスク残時間 ⇔ ディスク総時間 ⇔ トラック時間

なお表示窓の上部には、現在の時間表示モードが以下のように表示されます。

トラック経過時間：（表示ナシ）
トラック残時間： **REMAIN**が点灯
ディスク残時間： **TOTAL REMAIN**が点灯
ディスク総時間： **TOTAL**が点灯
トラック時間： **TOTAL**が点滅

● 時間表示設定はバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

【メモ】

- 停止中は常にディスク総時間が表示されます。
- **DISPLAY MODE**キーによる時間表示モード選択はRC-601MKIIにのみ適用されます。CD-601MKII本体の時間表示モード選択は本体のDISP MODEキーを使います。ただしメニュー番号19（"TIME"）の設定はRC-601MKII、CD-601MKII両方に対して有効です。

フレーム表示を消す

表示窓に表示される時間表示のフレーム桁を消すことができます。

メニュー番号18（"FRAME"）を使って、以下の中から選択します。

ON（初期設定）：フレーム桁を表示します。

OFF：フレーム桁を表示しません。

AUTO：オンライン再生時だけ、フレーム桁を表示しません。

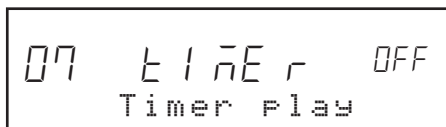
```
18  FrAnE  On
  Frame displa
```

タイマープレイ機能

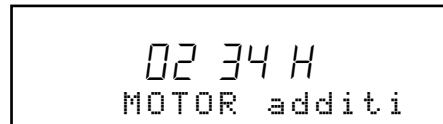
タイマープレイ機能をオンに設定しておくと、本機の電源をオンにしたとき自動的にモニター再生が始まります。

メニュー番号07（"TIMER"）を使って、タイマープレイ機能のオン／オフを選びます。

選択肢：OFF（初期設定）、ON

```
07  tinEr  OFF
  Timer play
```

モーター積算時間を見る

本機のCDメカニズムのモーターの積算使用時間を見るには、メニュー番号23の次（01の手前）のメニュー番号のない項目を選択します。

```
02 34 H
MOTOR additi
```

上の画面例はモーターの積算使用時間が234時間であることを示しています。

外部コントロール関連の設定

CD-601MKII本体リアパネルには外部コントロール用のREMOTE（PARALLEL）端子（37ピン・Dサブコネクター）や、REMOTE（SERIAL）端子（15ピン・Dサブコネクター、RS-232C準拠）が装備されています。

たとえばREMOTE（PARALLEL）端子を使ってフェーダースタート／ストップやイベントスタートが行なえます。REMOTE（SERIAL）端子を使ってコンピュータからCD-601MKIIをコントロールすることができます。（ただしRC-601MKIIリモコン使用時はREMOTE（SERIAL）端子はリモコン専用となり、他の用途には使えません。）

外部コントロールに関する詳細は、CD-601MKIIの取扱説明書をご覧ください。

仕様

入出力

PHONES

コネクター：　ステレオホンジャック
最大出力レベル：　50 mW＋50 mW（32 Ω負荷時）

PLAYER UNIT

コネクター：　Dサブ15ピン
電気的特性：　RS-232C準拠

MONITOR IN

コネクター：　Dサブ25ピン
最大入力レベル：　+6 dBV

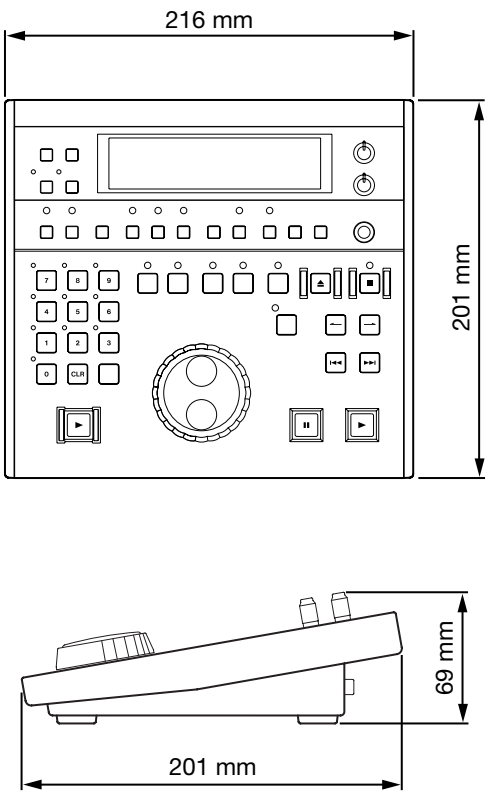
ヘッドホン出力電気的特性

再生周波数特性：　20 Hz〜20 kHz, ＋1.0/−2.0 dB
S/N 比：　70 dB以上（20 kHz LPF, A-weighted）
歪率（THD＋N）：　0.5％以下（20 kHz LPF）
［1 kHz 最大出力レベル］

一般

電源：　CD-601MKIIよりDC電源供給
外形寸法：　216 W×69 H×201 D（mm）
（フット、突起部含む）
質量：　1.3 kg（接続ケーブルを含まず）
付属品：　接続ケーブル（5 m）、取扱説明書、保証書

● 仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。
● 製品の改善により、取扱説明書のイラストなどが、一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。

外形寸法図

エラーメッセージ一覧

使用中に以下のエラーメッセージが表示された場合、以下の対処を行なってみてください。

表示	内容	対処
ERR01	TOC READ Error	・ディスクに傷がある →ディスクを交換してください。 ・ディスクが汚れている →ディスクをクリーニングしてください。
ERR02	GFS Error	
ERR03	Focus Error	
ERR04	SUBQ Error	ディスクを交換してください。
ERR05	TRAY LOADING Error	トレイに異物がないか確認してください。
ERR06	SLED Error	電源を再投入してください。
ERR07	SYSTEM Error	
ERR08	MEMORY Error	

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:30 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00 です。

タスカム営業技術　〒 180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

電話：0422-52-5106 / FAX：0422-52-6784

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:00 ～ 17:00 です。

ティアック修理センター　〒 190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡 2-2-7

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒 180-8550　東京都武蔵野市中町 3-7-3
http://www.teac.co.jp/tascam/

Printed in Japan